

# 校友会報

日本大学工学部校友会

第82号 平成31年3月1日

60周年記念号

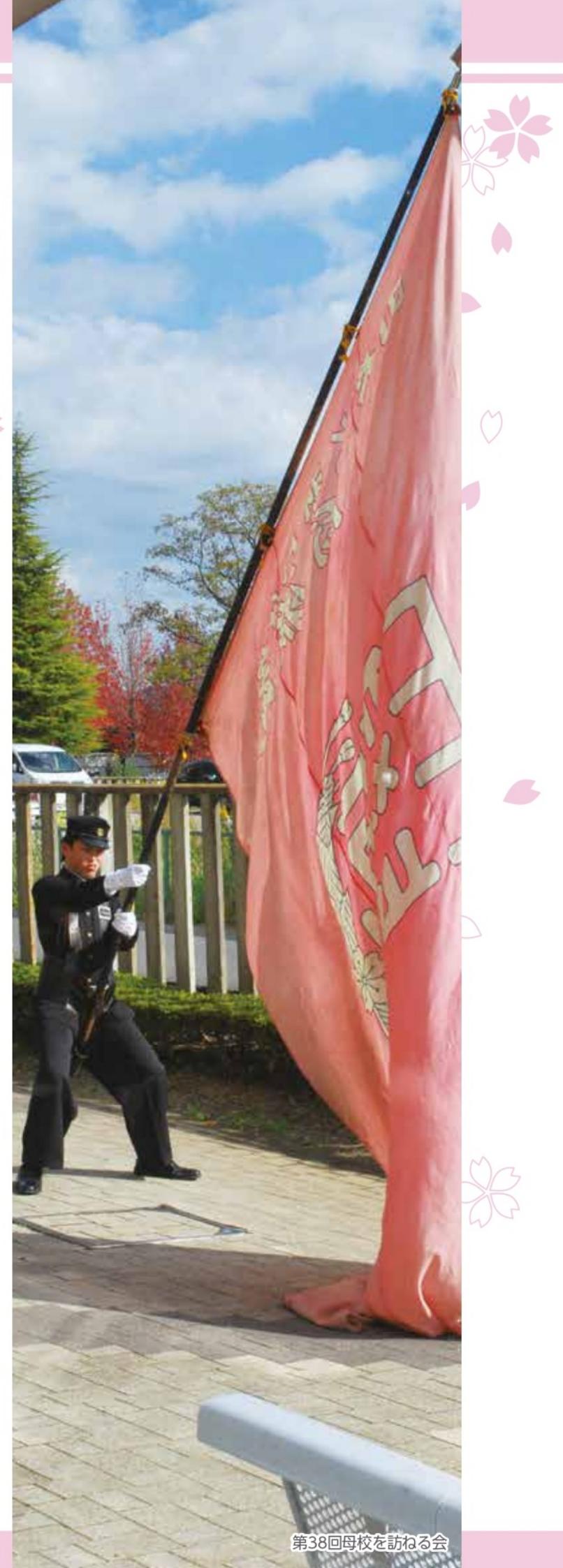


## INDEX

- ごあいさつ ..... 2
- 平成30年度第61回通常総会 ..... 3
- 第38回「母校を訪ねる会」を開催 ..... 3
- 「母校を訪ねる会」校友茶会 ..... 5
- 母校を訪ねる会に参加して ..... 5
- 校友会キャンパス散歩ツアーのガイドを体験して ..... 6
- 平成30年「母校を訪ねる会」「同級会」に参加して ..... 7
- クラブ・OB・OG会報告 ..... 11
- 支部活動 ..... 12
- 校友会組織・校友会NEWS ..... 15
- 日本大学工学部が推進する産学官連携活動(2) ..... 16
- 校友会報で振り返る昭和・平成の60年 ..... 18
- 校友会への期待 ..... 21
- 校友レポート・若葉マーク頑張り記 ..... 23
- 平成31年度通常総会通知・第39回母校を訪ねる会 ..... 24



表紙の QR コードをスマートフォンで読み取ると、校友会のホームページをご覧いただけます。



第38回母校を訪ねる会

## ごあいさつ



工学部長 出村 克宣



校友会会長 中野 伍朗

平成31年の早春を迎え、校友の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。本年度は工学部校友会設立60周年、人であれば還暦、校友会の第二の人生の始まりでもあり、心よりお祝い申し上げます。

最近の少子化傾向にも関わらず新設大学が多いなかで、日本大学が大きく異なるところはその歴史にあります。教職員はもちろんのこと、校友と共に築き上げてきた日本大学の歴史と伝統は、他のいかなるものもまねることはできません。

平成30年度（平成31年3月卒業見込）を含めて、工学部卒業生は6万人、大学院工学研究科修了生は3,000人を超える、校友は国内外で活躍しています。日本大学は本年10月に創立130周年を迎え、卒業生は120万人を超えます。校友の半数以上が現役で活躍しているといわれています。その数が50万人としても、我が国の20歳以上の成人人口は約1億人なので、日本人の200人に一人以上が日大OBであり、日本の屋台骨を支えているのは日本大学の校友であるといえます。学生諸君には、彼らが社会で活躍するとき、校友の日大ネットワークが大いに役立つと伝えています。

また、工学部校友会には、学生のクラブ活動や就職活動などに多大なるご支援をいただいております。ここに、工学部校友会設立60周年の祝辞に加えて、皆様には日頃より、工学部の教育・研究活動にご理解をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

少子高齢化、私学の定員管理の厳格化など大学を取り巻く環境は厳しいものがあります。しかし、本学部の教育・研究の伝統を継承しながら、教職員一丸となって、我が国の未来を担うエンジニアの育成に邁進してまいります。そのためには、強い絆をもっての工学部校友会との連携が不可欠であると考えています。今後とも何卒よろしくお願ひいたします。

結びに、校友諸氏のご健勝とご活躍はもちろん、工学部校友会の更なる発展を祈念致します。



校友の皆様におかれましては、益々ご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は校友会活動に対しご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

建学130周年の流れの中、我が工学部校友会もそのお蔭を以ちまして、昨年で設立60周年を迎えた。校友会員も6万人になろうとしております。学部校友会ならびに支部活動を通じ、会員相互の交流も活発に行われており、校友の絆はますます深まりつつあります。

平成30年度におきましては、母校を訪ねる会、学部祭への参加事業としてキャンパスツアー、校友茶会の開催、就職支援として校友企業の情報提供、また就学支援として給付型奨学金の交付、文武両道を目指す学生への課外活動支援として支援金贈呈、校友への支援として工学部学術研究報告会参加校友への経済的支援などを行なって参りました。

これからも引き続き、給付型奨学金制度の充実や学部祭への協賛、母校を訪ねる会、就職対策などの側面的支援を通じ、母校の更なる発展に寄与して参る所存です。特に「正会員の拡充」に関しては積極的に取り組んで参ります。

また、工学部校友会として、新しく組織された工学部後援会の事業にも積極的に協力して参りたいと考えております。これまで後援会地方支部と連携を強めている県支部もありますが、さらに連携を段階的に増やしていく、今後とも後援会と校友会が連携を密にして物心両面の様々な学生支援事業が展開できれば幸いです。

全国の校友の皆様のご理解、ご協力を頂き、今後も前向きな姿勢で開かれた校友会を目指して参ります。特に若い校友の皆様にも大いに参画・活動して頂ける環境作りを整備して参ります。

また、出村克宣学部長を始めとして、工学部教職員の皆様の平素からのご支援、ご協力に感謝申し上げます。これからも工学部ならびに工学部校友会が連携して車の両輪となり、母校の発展に寄与できれば幸いです。

最後になりますが、校友の皆様におかれましては、今後とも工学部校友会に対して変わらぬご支援、ご理解を賜りますようお願い申し上げますと共に、日本大学と工学部の更なる発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせて頂きます。

## 平成 30 年度 第 61 回通常総会

平成 30 年 4 月 21 日(土)、工学部 62 号館 3F 大講堂にて平成 30 年度通常総会を開催しました。議事に先立ち校友会功労賞受賞者の発表が行われ、支部から推薦された 5 名が紹介されました。議事では議長に高橋晃一氏(土 26)、議事録署名人に土岐悦雄氏(建 20)、菅家和洋氏(土 24)、書記に佐藤祐一氏(土 26)、柳沼由美子氏(化 30)をそれぞれ選出。報告事項、承認事項ならびに議案事項は賛成多数で可決されました。

総会後に行われた懇親会では田中英壽日本大学理事長・校友会長、大塚吉兵衛日本大学学長を始めとした来賓の皆様にご臨席いただきました。また、今年度は校友会が 60 周年を迎えるということもあり、催し物に工学部モダンジャズ研究会による演奏披露を加え、懇親会を



盛り上げてもらいました。例年より参加者も多く、大変盛会の裡に幕を閉じました。

### ● 校友会功労者の表彰

本会の会務遂行並びに発展に貢献した以下の 5 名が功労賞受賞者に決定しました。  
(敬称略)

支 部	氏 名	卒科回	活 動 歴
北 海 道	岡本 繁美	土16	北海道支部長を歴任
北 陸	神林 幸夫	土22	北陸支部長を歴任
東 東 海	松山 英達	土20	東東海支部設立の中心となり尽力
東 海	岩波 正城	土14	東海支部理事として会活動に尽力
教 員 部 会	横尾 聰	建28	教員部会および新潟支部設立の中心となり尽力



## 第 38 回「母校を訪ねる会」を開催



第68回北桜祭(工学部祭)の最終日にあたる平成30年10月28日(日)、「第38回母校を訪ねる会」が開催されました。今回は対象学年の他に新卒者をお招きしたところ、20名がご参加くださり、総勢234名の校友にお越しいただきました。

当日は天候にも恵まれました。久しぶりに訪れた皆様の中には、母校の目覚ましい発展に驚き、昔のままの風景を見つけては懐かしさに浸るご様子が窺えました。

懇親会では、毎年恒例の応援団による校歌・応援歌齊唱が披露され、会場は更に盛り上がりを見せました。

大勢のご参加のもと盛大に開催できましたことを厚くお礼申し上げます。

次回は、17回、27回、37回、47回、57回卒業生の皆様が対象となっておりますので、多くの皆様のご参加をお待ち申し上げております。



第26回：昭和53年卒



第36回：昭和63年卒、第46回：平成10年卒、第56回：平成20年卒他

## 「母校を訪ねる会」校友茶会

恒例の校友茶会を開催しました。母校を訪ねる会来場者を中心に約300名の方々にお茶を楽しんでいただきました。茶会運営は茶道の先生方や工学部茶道部の学生にご協力いただき、滞ることなく来場者をおもてなしすることが出来ました。

来場者からもご好評をいただいており、茶会を続けていくにあたって大変励みになります。次年度以降も続けて参りますので、母校を訪ねる会、北桜祭にご来場の皆様はぜひお立ち寄り下さい。



## 「母校を訪ねる会」に参加して

### 母校を訪ねる会および校友茶会に参加して



茶道部部長の佐藤啓太です。今年も母校を訪ねる会および校友茶会に参加させて頂き、ありがとうございました。数多くの方がお越しください、とてもうれしかったです。例年とは違い、自分を含め3

年生は、お菓子を運ぶのではなくお茶を点てる側としての参加だったので、緊張もしましたが、新鮮な思いを感じたの覚えています。実際にお点前中は、自分のこと集中したためか、緊張感などは感じず稽古通りのことが出来ました。1回のお点前が20分程なので、お茶会の時間内に複数回お点前を行うことになりましたが、やはり2回目以降はその場の雰囲気に慣れ、周りのこととも

茶道部 部長  
機械工学科3年 佐藤 啓太

気にすることが出来るほどにリラックスをして行えました。自分としては、お点前以上に母校を訪ねる会に参加された方々の前のスピーチの方が緊張していた気がします。大学に来てからあまり大勢の前で発表するということがなかったためだと思いますが、いい経験になったのではないかと思っています。お茶会も終わりに近づいたころには、みんな疲れた表情はしていましたが、このイベントを成功することが出来たと先生方も含め話していました。この全行程を通じて、部員同士が協力することで今まで以上に部としての結束が強まったようにも感じました。最後となりますが、この行事が成功したのは、多くの方々の支えがあってこそであり、自分としてはそれを実感できた場だったのではないかと思います。ありがとうございました。

### 母校を訪ねる会に参加して

本年度、日本大学工学部体育会応援團第62代團長を務めます私、吉田柊平と申します。

今年も応援團として参加させて頂き、誠にありがとうございます。当團は主に「演舞披露」という形で各行事に参加させて頂いており、特に校友会での披露が主であります。校友会では当團の演舞披露をとても楽しみにしてくださる方々が大勢いらっしゃる為、とても盛り上がる中演舞させて頂くのは非常に価値のあるステージであると感じております。

当團では母校を訪ねる会でも他行事と同様に練習やリハーサルを行いますが、会場が食堂ということもあるため当日リハーサルを行っております。極力多くの参加者の方々に見て頂くために位置調整、立ち振る舞い等も指導しています。参加者の方々の中にはご起立、ご唱和頂く方もいらっしゃる為、目頭が熱くなるほど逆に感動を

応援團 團長  
土木工学科4年 吉田 柊平

頂くものがありました。

しかし今回新たな試みとして團旗及び旗手紹介をさせて頂きましたが、我々の確認不足により、一部の参加者の方々から死角になってしまうという事態が起きました。当團で最も神聖で高貴な團旗をより多くの方々に見て頂けなかったのは非常に心残りでありますが、新たな一步とし、今後の応援團に期待して頂けると幸いでございます。

最後になりますが、応援團として活動出来るのは校友会の方々をはじめ、多くの関係者の方々の支えがあるからであります。今後とも日大生の範たる一団体として精進して参りますので何卒宜しくお願い致します。



# 2018 校友会 キャンパス 散歩ツアーの ガイドを体験して

10月27日(土)・28日(日)、ツアーガイドとして  
情報工学科 大山勝徳先生の情報サービスシステム  
研究室の学生さんにお手伝いいただき、  
当日の感想をお聞きしました。



左から、谷口さん、長谷川さん、RAHMANさん、鬼川さん

## 情報工学科 修士2年 鬼川 凌

私は、今回のキャンパスツアーにガイド兼タイムキーパーとして参加し、ツアーを通して日本大学工学部の歴史や普段目にする事のない研究を知ることができました。初めて行った校史資料室では、過去の実験器具やキャンパスの模型を見ながら参加者の方々から、「こんな実験をしていた」「大学にはこう通っていた」「ここにはこんな建物があった」という今とは違う当時の学生生活を教えていただき新鮮でした。また、普段知ることのない他学科の研究も目にする事ができ、興味や関心を深めることができました。今回のツアーは、日大工学部について多くのことを知ることができた有意義な時間でした。

## 情報工学科 学部4年 谷口 槟吾

工学部では口ハスに力を入れているという事を一年生の頃から聞いていましたし口ハスの家は大学に来る度に横を通りましたが、なんとなく地球にやさしいというイメージだけで、口ハスとはどういうものなのか、工学部でなされている試みの具体的な内容は知りませんでした。しかし、今回の校友会キャンバスツアーに御同行させていただき口ハスの家や口ハスの橋のコンセプトについて知り、他学科の研究も面白そうだと感じました。またOBの方と当時と今のキャンパスの違いや学生生活の様子をお話しながらキャンパスを廻り、今まで知らなかった工学部の長い歴史について知ることができとても有意義な時間でした。

## 情報工学科 修士1年 Labiblais RAHMAN

私は、OBの方々とのキャンバスツアーを通して、日本大学工学部の歴史を振り返ることができました。長く工学部に通っているのに、無意識に通り過ぎていた場所を改めて意識する契機になりました。特に、校史資料室では歴史を感じさせる機械や資料などあり技術の進化が一目でわかりました。教科書などでしか見たことないような情報機器のパンチカードやカセットテープが丁寧に保存されており、私が使っている機器などもいずれ保存されることを考えると感慨深いです。また、OBの方々との会話は興味深く、このような諸先輩方を輩出した工学部の一員であることの再確認をし、今後自身の研究に邁進したい思いを深めました。

## 情報工学科 学部4年 長谷川 敦史

今回、ツアーガイドとして、先輩方のガイド及びタイムキーパーとしてお手伝いさせていただきましたが、自分が普段行かない場所を見学することができました。そこで、初めて知ったことや日大の歴史について学びました。口ハスの家は、前を通ることはよくありましたが、中の方まで入ることはありませんでした。校史資料館は、今回中に入るのが初めてで、過去の実験道具や制作物、昔の日本大学工学部の写真が展示されており、先輩方とその時の思い出話を聞くことができました。今回の経験は、過去の日大について異なる年代の方とお話しする貴重な経験でした。周りの人たちに広めて、もっと工学部について興味を持ってもらえたならと思います。

# 平成30年「母校を訪ねる会」「同級会」に参加して

## 21回目の「桜三九会」同期会と 母校再訪

土木16回卒 高橋 迪夫



昭和39年に土木工学科に入学した同期生でつくる「桜三九会」(さくらサク会)の21回目の同期会を、卒業後50年の節目となる「母校を訪ねる会」に合わせて、平成30年10月27日、郡山ビューホテルアネックスにおいて盛大に開催しました。

会には、恩師の村田吉晴先生にもご出席を頂き、同期生32名、令夫人4名が集いました。何十年か振りに顔を見せてくれた友、毎回参加している常連の友、北海道、石川、京都、大阪、四国等から遠路駆けつけてくれた友…。近況を交えた自己紹介が進むにつれて学生時代の懐かしい思い出がよみがえり、賑やかな合いの手も飛び交い、大変和やかな楽しいひと時となりました。

翌日は、10時前から「母校を訪ねる会」に参加して、秋晴れの中、70号館教室棟展望台、校史資料室、学生寮など、学生時代には想像もできなかったほどに整備された学内を散策した後、中庭での記念撮影とハットNEでの懇親会に出席して、懐かしい学び舎でのひと時を存分に楽しみ、来年、青森で再会することを約して、心に残る2日間の楽しい集いとなりました。

最後に、「母校を訪ねる会」にご招待下さいました工学部並びに工学部校友会の皆様に感謝申し上げます。また、同期会開催に当たり、いろいろとご支援頂いた校友会の皆様に御礼申し上げます。



## 母校を訪ねる会について

電気16回卒 能登 正俊

この度は「母校を訪ねる会」にご招待を頂きありがとうございました。私達は1996年3月6日有志9名が東京神田に集まり懇親会を開きました。席上会員相互の親睦を図るため、この集まりを「桜門会」と名付け、定期的に集まっていることになりました。2005年頃から、定年退職者が始めるにつれ会員が増え現在40名近くがいます。私は3年前から幹事を担当しております。

春は花見、冬は忘年会が定例で毎年20名前後の出席者があります。昨年から「母校を訪ねる会」が今年であることを会員に周知していました。郡山在住の伊藤君が案内状の作成、宿泊場予約、宴会場予約、校友会との不明者情報の共有等にお骨折りいただいた結果、予想外の23名もの出席申込みがありました。さて前日の10月27日、野原君、丸山君と郡山駅で待ち合わせをし、シャトルバスで母校に向かいました。キャンパスは北桜祭で大賑わい。何度も呼びかけられました。当時とくらべ女子学生の多いことに気づきました。校内を回った後、「校友会キャンパス散歩ツアー」に参加しました。資料館には当時の実験器具や古い電気製品があり、この50年に電気技術が飛躍的に進んだことを思い知らされました。次にロハスの家、花壇、トイレ、橋を見学しました。ロハスとはよく聞く言葉で「健康と地域環境にやさしい」とのことですがよく理解できていませんでした。実際に見て説明を聞いてると良くわかりました。大学がロハスに積極的に取り組んでいることが伝わってきました。展望台、学生寮「バンデリアン郡山」を見学後、市内に戻り6時からの同級会に出席しました。丸山君の進行係で始まり先ず記念写真撮影、私の挨拶、福田君の音頭で乾杯、各人の近況報告その後オレ、オマエの学生時代に戻り楽しいひと時を過ごしました。

伊藤君の閉会の辞でお開きとなった後、語り尽くせな



い者は二次会、三次会と進み郡山の夜を楽しみました。次の日は前日の仲間と郡山駅を9時に出発し大学まで歩いて行きました（11時着）。

受付を済ませ接待の茶菓を頂きながら出席者名簿を見ていると工業化学の村上君の名を見つけました。4年間同じ下宿で一緒に過ごし卒業後は1度も会っていなかったのです。実は7月の西日本豪雨で被災し安否が不明になっていたのです。懇親会で出村克宣学部長、中野伍朗校友会会长のスピーチが終わり、乾杯後すぐに村上君を探し回ったのですが大勢の中から探し出すのは大変な事でした（お互いに探し回っていて分からなかったようです）。探し当てた時は50年が昨日まで会っていたような気がしました。まだ避難所にいる事等心配ですが、無事会えたことは参加して良かったです。50年経っても受け入れてくれる大学の暖かさや優しさを感じました。母校を訪ねる会は50回後も自由に参加可能とのことで55回、60回までも参加したいと考えています。

## 卒業後50年、校友会最後の招待となる母校を訪ねる会に参加して

工化16回卒 上野 一吉

まずは前校友会長手塚公敏さんの長年の労に感謝すると同時に、中野伍朗現会長には今後をよろしくお願ひする次第です。二人とも16回卒であり同期でのバトンタッチはあまりないのではないかと思います。私自身手塚さんとは合気道部で、中野さんとは工業化学で同窓であり何か縁を感じます。

今回工業化学科は早目に連絡を取り合い、前日に磐梯熱海に集合、入浴後すぐに宴会の前哨戦が始まり引き続き本宴会のスタート。中野会長も参加頂き、三年ぶりのクラス会がスタート。昔話に花が咲き、幹事部屋は遅くまで明かりが灯っていました。

翌日は各々学校に集合、50年前に比較すると着実に発展を続け雲泥の差。女子学生も増え華やいだ雰囲気もあり、茶道部の接待、校友会のおもてなし、そして先日お送り頂いた記念写真。校友会招待の最後を満喫することができました。参加者20名を代表して「ありがとうございます」と云わせていただきます。



## 母校を訪ねる会と同級会に参加して

土木26回卒 西林 敏行



母校を訪ねるのは、平成10、20年と今回で3回目となります。毎回地元の級友達が幹事となり、同級会を開催していただいている。今回は30名の参加がありました。卒業以来40年ぶりに会う級友もあり、風貌が変わったもののすぐ誰だか分かり、懐かしく昔話に花が咲きました。二次会も計画しており、更に盛り上がり、中には三次会まで参加した人もいたようあります。

翌日キャンパスに行き、受付を済ませ、丁重な茶道部の抹茶と御菓子をいただき、昨日の酔いを醒まし、暫く寛ぎました。その後キャンパス内を散策し、来るたびに新しい校舎や施設が増え驚いていましたが、第一校舎に入った時は、設備こそ変わったものの建物はそのままで懐かしく、40年前にタイムスリップしたようありました。外に出て、昔の掲示板後で休憩し、級友と当時はここに「休講」の張り紙を待ち望んでいたことを思い出しながら話し込んでしました。

記念写真撮影場所に移動すると、そこには下宿の旧友がおり、40年ぶりに会い、下宿のおじさん、おばさんが亡くなった話をし、歳月と寂しさを痛感しました。すると後ろから「西林先輩懐かしいですね」と声を掛けられたが、誰だか分からず失礼してしまいました。名刺をいただき、「同宿の3年後輩ですよ」と言われましたが、なかなか思い出せないでいました。色々話をしていくにつれ、やっと思い出しましたが、40年も経つのに良く覚えていてくれたと感謝感激がありました。その後記念写真を撮り、懇親会場へ移動し、飲みながら、応援団の演舞を楽しく見させていただきました。

4年間共に学び、遊んだ仲間は、年齢を重ねるごとに懐かしくなり、会いたくなる気持ちにさせてくれます。その機会を企画してくれるのは級友であり、校友会であります。学生当時は6時間以上かかった郡山も、今では3時間ほどで来てしまう。機会があればこれからも母校を訪ね、級友と共に昔話に花を咲かせたいと思っています。

最後になりましたが、幹事や校友会の皆様に心から感謝し、これからもよろしくお願い申し上げます。

## 3回目の母校を訪ねる会に参加して

工化 26回卒 市野久美子



卒業後 40 年目の今回の母校を訪ねる会は、43 歳 53 歳そして 63 歳の今回で 3 回目となります。

10 年に一度のこの集まりを会報誌が届く度に、あと 2 年…あと 1 年、今年！と心待ちにしていました。

日本大学工学部に入学する前も静岡人、そして卒業して今も静岡人の私は、4 年間郡山人であった事を不思議な感覚でよく思い出します。

会津若松の山ブドウの籠を見たとき、福島弁をテレビで聞いた時、私はよく娘や息子と日大工学部の話をします。

なぜ話に共通点があるかというと、それは、長女は日大工学部情報工学科卒、息子は日大工学部土木工学科卒だからです。大学進学を考えている我が子供たちに「日大工学部を受けてみたら！」と自分の青春の 4 年間を過ごした日大工学部を懐かしく思い出す瞬間でした。3 人で郡山談義の末に工学部の校歌を歌うことも…。

当時は工業化学科に入学してみると、私以外 4 名の女子学生の方々が入学されており、とても珍しい事だと言われた事を思い出します。たしか、女子学生は 1 年生から 4 年生まで約 30 名ほどの、女子学生の会「みちの会」があり、先輩後輩集まって食事会などをした思い出があります。キャンパスを歩いてほぼ女子学生にすれ違わない様な人数でした。「みちの会」は大先輩の有機化学の先生のお名前から付いた会名だとのことでした。

平成 30 年、私にとって 3 回目の「母校を訪ねる会」は同級生にあった時は「誰か分かる？」「うーん。分かるよ !!」などと還暦も過ぎた自分たちでも 30 年前にタイムスリップした様な気分で若返ってしまいました。

当日はキャンパスの中庭で記念写真を撮り、記念館の展望台から郡山の市街を眺め、そして 10 年ぶりに再会した同級生のご夫妻に猪苗代湖へドライブに誘っていただきました。猪苗代湖は大学 1 年生の時に参加していたヨット部で合宿をした思い出の湖です。紅葉を眺めながらドライブもとても楽しく思い出になりました。

10 年後は娘と息子と一緒に郡山を訪れることが出来る様に健康で元気な 10 年を過ごしたいと思っています。

## 母校を訪ねる会に参加して

建築 36回卒 福田 淳一

10 年前の母校を訪ねる会前夜。参加せずに家にいた私に郡山に集まつた足立研のメンバーから電話がありました。「だあ～、お前根性ね～なあ～、今からでも来いよ～…」電話の向こうで叫ぶ横山君に「無理だ！無理、また次回なあ」と言って電話を切りました。翌年、彼が病に倒れ急逝されるとは思いもせぬ…。

8 月、校友会事務局から母校を訪ねる会の案内が届きました。前回不参加を非常に後悔していた私は、今回こそは是が非でもと思い、足立研メンバーにメールを送信したところ、前日の 27 日(土)には、稻葉、遠藤、小野、梶原、君島、金原、樋口、深田そして私の計 9 名が郡山に集まる事となりました。梶原君に段取りして頂いた店に集合、「よお !!」と迎えてくれた仲間たちの懐かしい笑顔が 30 年の歳月の隔たりを一瞬で忘れさせてくれました。近況報告や武勇伝、学生時代の暴露話、そして横山君の思い出話などで宴はおおいに盛り上りました。

母校を訪ねる会当日、都合で 2 名が抜け 7 名で会場へ。前回同様足立研メンバーのみかと思われましたが、大内研の岸君が加わり、建築学科 36 回卒は 8 名の参加となりました。受付を済ませ、写真撮影場所に移動しながら見た校内の変貌ぶりは驚きと共に、確実に発展する母校の逞しさを感じさせるものでした。また、あさか写真館の館主もご健在で、真っ白になった頭を振りながら「はい、そこの色男、体ちょっと右ね」と皆の頬を緩ませた絶妙なタイミングでの撮影。同好会や就職活動の写真でお世話になった当時を思い出し、何とも言えない懐かしさに包まれた一時でした。

そして、出村克宣学部長の挨拶で始まった懇親会。出席者挨拶で急遽登壇した君島君の酔っ払って掴み所のない迷スピーチが笑いを誘い、応援團の見事な演武で会場が拍手に包まれたりと、賑やかでとても印象に残る会でした。

散会後周囲を散策。お世話になったアパートは、セキュリティーの充実した立派な建物に建替えられていました。大家さんもご健在で、私の事も覚えていて下さいました。他にも訪れたい場所が沢山あったのですが、と



ても回り切れるものではありませんでした。「10年後の次回と言わず、近いうちにまた来よう」そう思いながら帰路につきました。

最後に、このような機会を設けて頂いた日本大学工学部と校友会の皆様に改めて感謝を申し上げます。本当に有難うございました。

## 母校を訪ねる会に参加して

機械 46 回卒 村上 寛之



去る 10月 28日(日)に日本大学工学部校友会による「平成 30 年度母校を訪ねる会」に参加する機会を頂き、大学院修了後の 2001 年に訪問して以来、実に 17 年ぶりに母校である日本大学工学部を訪れました。所属した渦流研究室や機械工学科事務室があった 10 号館、15 号館が今も変わらず存在する一方、70 号館や次世代工学研究センター等卒業後に設置された施設を見て、時代とともに変化する工学部の現状を今回の訪問で実感することが出来ました。受付と写真撮影後の懇親会では、出席した 46 回卒業生の方々をはじめ、在学時代お世話になった佐藤光正先生、渡辺弘一先生や土木工学科の高橋迪夫先生、現職の田村賢一教授にお会いし、自身の近況をお伝えすると共に、現在の工学部の教育環境、研究等について歓談しました。懇親会後に行われた校友会キャンパス散歩ツアーでは現在の工学部の研究理念である「ロハス (Lifestyles Of Health And Sustainability)」に基づく研究施設「ロハスの家」、「ロハスのトイレ」を見学し、その後学生時代にはなかった 70 号館の見学では、展望台から郡山市内と名山会津磐梯山、安達太良山を一望し、校史資料館にて保存されている学生時代に使用されていた実験設備を見て、学生当時を思い出すとともに、懐かしさに浸りました。

さて、私は現在防衛省海上自衛隊に所属し、後方職域である艦船装備幹部(旧海軍における技術科士官に相当)として、主に艦艇機関(艦艇用ガスタービン及びディーゼル機関並びにポンプ等関連機・機器)に関する造修整備監督業務に従事しておりますが、その監督・検査業務に際し、大学で学んでおいて良かったなど特に実感したのは、流体機械、熱機関工学等の専門科目もそうですが、基礎科目である材料・熱・流体力学や機械要素、機械工学実験、機械設計演習で得た知識及び見識と考えています。社会に出てから学校では学ぶ事ができない専門的技術及び知識を得ることが多いのですが、それを理解する上で必要な技術の基礎的知識はやはり大学等教育機関で学び、習得すべきものと考えます。工学部卒業生の先輩として後輩の皆様には、大学の 4 年間、是非とも専門学科の基礎的知識をしっかり理解し、習得し、エンジ

ニアとしての初步的見識を身に着けた上で、社会に船出することを切に願います。最後にこのような機会にご招待して頂きました校友会及び学校関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

## 母校を訪ねる会に参加して

情報 12 回卒 佐藤 祐次

実家は福島ですが、いつでも来られると思うと不思議と来ないので、大学卒業後近くを通ることはあってもキャンパスを訪れる機会はありませんでした。そんな中で校友会から母校を訪ねる会の案内が届き、再び母校を訪れる機会を設けて頂きました。

卒業して早 10 年。まだ 10 年というべきか大学で過ごした 4 年間はつい昨日のようにも遠い昔のようにも感じられます。

10 年ぶりに訪れたキャンパスに入り、正門から心静緑感広場に掛けて広がる紅葉を見ると当時の記憶が蘇ってきました。

思えばあの当時は、卒業後に SE へなることを目標にプログラムやシステムの学習をしていたことや、卒業研究を進めるために情報研究棟の研究室に布団を持ち込んで泊まり込みで論文を書いていたことが懐かしく思えます。しかしながら、卒業後は専門と異なる機械製品の設計、評価に携わる仕事に就くことになりました。何も分からぬ私に対し、同じ職場に居ました工学部又は他学部の諸先輩方に助けて頂き、なんとかこれまでやって来ることが出来ました。社会に出てから職場以外にも様々な場で校友に出会い、助けられたことは本学を卒業して得た貴重な財産だと感謝しています。

母校を訪ねる会終了後、ふと情報研究棟の中を見たり、通路に掲示されている各研究室の研究内容を見学していました。どうやら研究室の見学希望者だと思われたらしく、私は「この研究室出身ではありませんが、情報工学科の卒業生です」と答え、現在研究室で行っている研究内容を聞かせて貰いました。するとその研究室では私の同級生たちが行っていた研究を今でも継続して行っていることが分かりました。

私たちの世代が行っていたことが後輩たちに脈々と受け継がれていると思うと、自分の行った研究ではなくともどこかうれしかったです。

最後にこのような場を設けて頂いた校友会の関係者、キャンパスを案内して頂いた院生の皆様に心より感謝申し上げます。



# クラブ・OB・OG会報告

## ボウリング同好会 OB会

### 日本大学工学部ボウリング同好会 OB会実施報告

建築 24回卒 濱戸口 正樹

2018年4月29日(日)、東京都港区、品川プリンスホテルボウリングセンターで日本大学工学部ボウリング同好会OB会が開催されました。第1代山田輝夫主将、指導教員渡澤正典先生からの賛助金をいただき、総参加人員17名で実施されました。

北は北海道から第5代水島豊先輩、南は大阪から第3代辰巳主将までが参加され、ボウリング大会12名、1次宴会15名、2次宴会16名の参加でした。

宴會では、第2代(1965年入学)佐野嘉彦先輩から始まり、第29代(1992年入学)前田正吾氏まで順番に、同好会設立状況・東北学連創設・東北選手権の全種目制覇・全日本選手権等での全国転戦・体育会での部昇格・ボウリング場閉鎖による練習場不足から廃部(1998年頃?)までの各時代の青春がそれぞれ語られました。

そのほか、同好会唯一のプロボウラー第3代石和一利先輩、現在長野県ボウリング連盟理事長第8代川上秀樹先輩、現在福島県ボウリング連盟副理事長第11代垣内泰氏の日本代表の世界大会への強化指導の話など尽きな



い話題が続きました。

次回は2年後2020年郡山市において川上先輩幹事での開催予定です。

ボウリング同好会に所属した方は下記に入学年とメール先を連絡ください。

9代(1972年入学)濱戸口 正樹

## 地質研究会 OB会

### 40数年ぶりの地質研究会 OB会

工化23回卒 菅原 邦元

4月26日に東京駅至近の中華料理店で、地質研究会OB会を開催した。

第22回卒から26回卒のOBで、9名が参加した。

各自の近況報告に始まり、当時の思い出を語りながら、にぎやかな会食となった。

関氏が、当時の写真を拡大コピーしたものを持参してくれたので、思い出も更に記憶に蘇ることとなった。

残念ながら、現在大学のサークルとして活動しているのは、研究会の一部だった天文だけである。当時は、化石・鍾乳洞・天文・鉱物班があり、県内を主として活動していた。福島県は化石や鍾乳洞、鉱山に恵まれ、天体観測に適した山もある。

化石班は、いわき市の四ツ倉で、三葉虫の化石を採集している。鉱物班は、四ツ倉近くの八重鉱山で銅や鉄の採集をしたり、石川町で電気石やザクロ石を採集したりしている。また、鍾乳洞班はあぶくま洞を見学している。天文班は、入水の上にある仙台平でいつも観測をしていた。星の写真が、「天文ガイド」という本に掲載されたこともある。

夏には研究会全体で、秩父で合宿をし、鉱物班の私は、その折に秩父鉱山を見学し、鉄を分離する工場や、金が糸状に産出する鉱石を見せて貰い、大変感激した。鍾乳洞班は近くの鍾乳洞を見学、化石班は皆野で山の探索にあたった。

合宿のこと、大學祭のこと。往時に戻ったかのように、皆で語り合つた。2時間ほどであったが、非常に楽しい時間を過ごし、再会を約束して会を終えた。



## 支 部 活 動

### 北海道

建築 25 回卒 北海道支部長 横関 一伸

平成最後の第 45 回日本大学工学部校友会北海道支部総会が平成 30 年 4 月 27 日(金)プレミアムホテル中島公園で、校友 30 名あまりが参加し、和やかな雰囲気で開催されました。

学部より、西園敏弘学部次長、工学部校友会より城座隆夫副会長の参加を仰ぎ、工学部の現状、校友会の総会の報告などがありました。今回、工学部北海道支部の開催日のアンケートを取り、4 月開催の是非を、校友にお聞きしました。4 月末になると、ゴールデンウイークと重なり、会場、また日程の関係で、出席が難しいなどのご意見を頂き、これから、役員会を経て、開催時期を考えたいと思います。

11 月 16 日(金)には、函館支会で、支会懇親会が開かれ、13 名の出席があり、私も、札幌から出席いたしました。函館支会は、来年も開催することです。

20 数年前から、北海道からの工学部への進学者も年間 20 名を割り、各学年 10 名前後でした。その 10 名前後の卒業生も北海道へ帰っての就職者も少なく、北海道支部の活動もじり貧となっています。只、函館からは、新幹線で、郡山まで 4 時間を切る時代となりそうなので、函館からの、入学者が増えること、北海道に戻ってくる学生に期待したいと思います。東京などで、定年となり、北海道へ戻られる方々、またご子弟を工学部へ入学を考えていらっしゃる方のご出席を期待いたします。

### 関 東

土木 20 回卒 関東支部長 小林 啓一

関東支部は東京都、神奈川県、千葉県、栃木県、長野県、茨城県、群馬県、山梨県の 1 都 8 県で構成されています。うち 1 都 5 県に、東京都校友会、神奈川県校友会、埼玉県校友会、千葉県校友会、栃木県校友会、長野県校友会を設置しています。また、茨城県、群馬県、山梨県には各県担当者を置いて活動を行っています。

本年度の活動として、6 月に関東支部役員会、7 月に神奈川県校友会総会、11 月に栃木県校友会総会を開催いたしました。栃木県校友会総会には、毎年、出村克宣学部長、佐藤勉衆議院議員、福田富一栃木県知事、栃木県父母会、在校生が出席し盛大に行われました。そのほかの活動として、4 月に工学部校友会総会、7 月に関東支部父母会、12 月に箱根駅伝説明会に出席し校友との絆を深めております。

今年度は、大手町、横浜高島町交差点付近で箱根駅伝の応援を行いました。毎年、2 区、9 区の横浜高島町交差点付近の応援責任者を工学部校友が務めており、校友の皆様の参加をお待ちしております。

最後に校友会の増々の発展と支部活動の活性化のために、校友会の準会員である在校生を招待し、校友会への理解を深めるとともに若い世代の校友会への参加を呼びかけましょう。

### 北 陸

土木 31 回卒 北陸支部長 山本 久

校友会の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

平成 30 年度の北陸支部総会には、校友会城座隆夫副会長のご臨席を賜り、新潟東映ホテルにて 7 月 28 日(土)に開催されました。懇親会には会員 43 名、父母会からは過去最多の 13 名に参加頂き、アカシア教育研究会も含めて総勢 58 名と大盛況となりました。

校友会からは大学の近況や学生活動の報告を頂き、父母会からは学生に対する期待と不安の思いを語りながら、就職活動の協力を校友会員に相談する等、和気藹々と楽しく過ごしながらも非常に有意義な懇親会となりました。

また、9 月 15 日(土)にはノーブルウッドゴルフクラブにて懇親ゴルフコンペを行いました。

現在北陸支部会員は 200 名程が登録し、その内 3 割程度の会員より支部活動に参加頂いています。今後一人でも多くの会員から支部活動に参加してもらうためには、役員が率先して楽しみ、それらを伝えていくことが大切だと感じています。

引き続き、活気ある支部を目指して取り組んで行きたいと考えていますので、今後ともご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。



## 東 海

土木 28回卒 東海支部事務局長 近藤 直幸

校友諸兄には益々ご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。

平成30年度東海支部通常総会は7月27日(金)に名古屋東急ホテルにて開催しました。校友会から中野伍朗会長、工学部からは西園敏弘学部次長の御出席をいただき、校友会の現状及び学内の状況と方向性を含めたご挨拶を頂きました。続いて年間活動報告、会計報告があり、原案どおり承認され、総会は終了しました。その後、東海地区でご活躍中の、日本舞踊西川流 師範西川長秀様（本学芸術学部昭和60年卒）による「日本舞踊について」の講演会を行いその盛り上がった状態のままで懇親会へと進み、校友との交流を深めるひとときを過ごすことができました。



今後も若い校友の皆様にも気軽に参加していただけるような、魅力ある会にしたいと日々考えております。年末には忘年会を開催する等、先輩後輩が親睦を深める機会を設けています。東海支部に在籍または在住する校友の皆さん、お互いに誘い合うなど、気軽に参加してくだされば幸いに存じます。

## 東東海

土木 38回卒 東東海支部(静岡アカシア会) 常任幹事 望月 克彦

大学工学部校友会東東  
0周年記念 静岡アカシ

本年度の東東海支部の総会は、中部地区が担当となり、11月10日(土)静岡市で開催いたしました。

本部からは中野伍朗会長・日本大学理事、学部からは古河幸雄教授（土木工学科）に出席いただきました。

永年、会長として、会の設立から20年にわたり御尽力された大澤会長が勇退され、県土木の酒井浩行氏が会長に就任されました。

この2～3年、若干の参加者が増加し、懇親会の雰囲気も大きく変わってきました。参加者は97名되었습니다。



## 四 国

建築 33回卒 四国支部事務局長 畑内 清二

平成30年度四国支部総会は8月18日(土)に校友会本部より中野伍朗会長をお迎えして、徳島県より1名、愛媛県より3名、高知県より1名、香川県より19名の25名の出席により高松市の中華料理店“平安閣ひろば店”に於いて六車秀世四国支部長（土木16回）の進行により開催されました。（写真1）



写真1

四国支部では、四国内の交通の便が悪い事から、六車支部長出席のもと、各県校友会総会を開催してきめ細やかな親睦を図っております。

愛媛県校友会は、11月3日(土)に永井次郎会長（建築14回）のもと、青木徹夫事務局長（土木21回）の進行により出席者12名で開催されました。（写真2）



写真2

徳島県校友会は、11月23日(金)に藤原賢治会長（建築36回）のもと、丸浦誠事務局長（建築14回）の進行にて出席者9名で行われております。この会には愛媛県校友会より山田順副会長（建築23回）が出席され、各県の交流の和の広がりを感じました。（写真3）



写真3

この後、春に家族会を兼ねた香川県校友会と、高知県校友会も予定しています。毎月第一木曜日、高松市の居酒屋“はんぶん”での「一木会」も引き続き開催しておりますので、いつでもお気軽にお立ち寄りください。

## 九州

土木 28回卒 九州支部長 上田 勝

今年も九州支部は平穏でした。それが何よりと思っております。定例の支部総会は11月16日(金)に福岡市内にある平和樓本店にて開催されました。校友会からは城座隆夫副会長、本部校友会の山下巧三副会長もご出席いただき盛況のうちに終えることができました。毎年思うことではあるのですが、もう少し皆さんと歓談できる時間が欲しかったです。総会は年に1度ですが、この総会をおこなった平和樓の3階に「てんじん」というお店があります。そこで毎月第3木曜日に「アカシヤ会」という定例会を開いております。参加不参加自由で会費3千円で開催しています。実は、今年の総会前日が第3木曜日でした。ちゃんと皆さん集まりました、翌日総会なのに。ちなみに11月の第3木曜日はボージョレヌーボー解禁の日。毎年、アカシヤ会の11月はボージョレを楽しむ会になっています。みんな集まって楽しめれば良いじゃない!そのような感じで九州支部はのんびりとやっています。



## 教員部会

土木 39回卒 教員部会新潟支部事務局次長 渡邊 太一

昨年度まで山形県支部に総会・懇親会を引き受けていただいておりましたが、本年度は本県支部が会場となり、去る平成30年11月17日(土)新潟市で開催されました。

中野朗会長・日本大学理事のご出席をいただき、学部からは長年新潟県にはなじみの深く、教員部会に大変ご理解ご支援をいただいておりました土木工学科・古河幸雄教授のご出席をいただいて開催いたしました。

主な報告事項としては、

1. 福島県支部設置について承認され、次年度4月発足、支部長には渡辺秀雄氏が予定されており、今後校友会事務局、本会事務局と緊密な連携をもって活動されることを期待しております。
2. 今後少子化に向かい、より一層優秀な高校生を母校に送り込むため、いろんな方策が他大学では実行されていますので、幸い中野会長が大学理事という要職に就任されましたので多くの要望が出されました(学生募集の他大学の例等)。
3. 功労者表彰として長い間事務局長として本会支部のみならず、教員部会全体に大きな業績を残された横尾聰氏(建28回卒)・上越総合技術高校進路指導部長が選ばれ、中野会長より授与されました。横尾事務局長には今後とも本会並びに工学部の為にお力をいただきたいというが会員一同の願いです。



## ～おめでとうございます～

- 津島 節氏(電36回) 青森県立五所川原工業高校教頭に昇格
- 松下 信禎氏(建42回) 東京都立蒲田高校副校長に昇格

**行場義修氏 追悼** 建築22回卒 教員部会(アカシア教育研究会)事務局長 永田 進

行場義修氏(建築30回卒・教員部会北海道支部事務局長)は入院加療中のところ、平成30年11月15日、ご逝去されました。享年60歳。数年前から幾度か入院されたりしましたが、母校(旭川工高)に異動後はお元気になられ安堵の矢先でただただ残念至極の一言であります。ご冥福をお祈り申し上げます。

故人は道北の伝統校・旭川工高より建築学科に入学、卒業後は北の大地の最北端・厳寒の地でもある名寄工高(現、名寄産業高)に赴任、高校教師としての出発をされました。

旭川工高は道内屈折の伝統校であり、本会教員部会の高崎格(建築14回卒)会長も建築科長として教鞭をとり、現、旭川工校長の太田潤一校長(電気34回卒)や池原智宏室蘭工高教頭(建築38回卒)の母校として工学部との深い縁のある工業高校であります。その後、帯広工高に異動、同校には青春のまっただ中、教員人生のもっとも脂の乗った20余年の長い年月在職。建築教育のみならずアーチェリー部顧問としても活躍。多くの生徒を全国大会に出場させるなど熱き情熱を生徒にぶつけ、生徒・保護者と強い信頼関係で結ばれておりました。また、強い母校愛のもと、校友会教員部会(アカシア教育研究会)の設立、同北海道支部の設立・運営にはひとたなるご支援・ご指導をいただき、今日の活動の基盤を作っていました中心人物であります。故人がおられたからこそ今日、多方面での教員部会の活動があると思います。さらに多くの優秀な教え子を母校に送り工学部躍進の原動力にもなっていただきました。

2年前、母校帰りを果たし、定年までの短い間でありますが同窓の太田校長を助け母校躍進に強い意欲を示していたにも関わらず、志半ばのご逝去は心残りであったと思います。

しかし、故人の30余年の高校教師としての歩みは多くの教え子、同僚、保護者、工学部同窓生の中にしっかりと刻まれております。

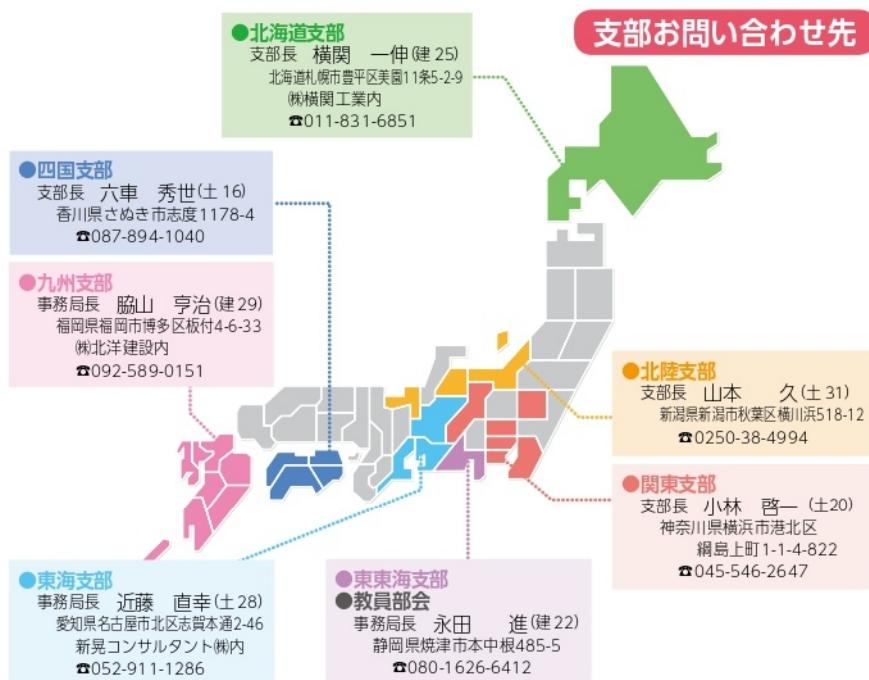
生まれ故郷、大雪の麓から母校工学部をお守りいただきたく思います。

# 校友会組織

## ●卒業回早見表

回	卒業年（3月）		
5学科	情報	元号	西暦
1		昭和 28	1953
5		32	1957
10		37	1962
15		42	1967
20		47	1972
25		52	1977
30		57	1982
35		62	1987
40		平成 4	1992
45	1	9	1997
50	6	14	2002
55	11	19	2007
60	16	24	2012
65	21	29	2017

※ 5年刻みです。



## 校友会NEWS

### ●会員通信費寄付者ご芳名

(敬称略 平成30年2月1日～平成31年1月31日)

#### ●65回卒

生命応用 小川 直也 菊池 旭

#### ●66回卒

土木	佐川 恭一	山本 夏斗
建築	岩本 侑実 田中 大智 古川 敦士 山田 周平	北脇 裕基 長根 譲 宮永 雅仁 角田 大樹
機械	大槻 働 高瀬 太寿 大久保稟平 羽生田眞司	大類 祥 村上 孝之 菅原 立崎
電気電子	小谷野 慶 千葉 孔晴	船岡 哲郎 村尾 勇武
生命応用	石戸 頌大 山崎 翔	鈴木 雄大 山崎 拓実
情報	矢吹 光 輪島 宏紀	佐藤 元紀 笹生 孔太
		長谷部 駿

### ●課外活動への支援

以下の27団体に課外活動支援金の援助を行いました。

#### 体育会

- 合氣道部 ●アメリカンフットボール部 ●弓道部
- 硬式庭球部 ●硬式野球部 ●サッカーチーム ●射撃部
- 柔道部 ●水泳部 ●ソフトテニス部
- バレー部 ●ボクシング部 ●洋弓部
- ラグビー部 ●陸上競技部

#### 学文連

- 桜家一門YOSAKORI隊 ●音楽研究会 ●滑空研究会
- 管弦樂部 ●自動車部 ●写真部 ●吹奏樂部
- 赤十字奉仕団 ●創作活動部 ●鐵道研究会
- 美術部 ●モダンジャズ部

### ●校友会賞受賞者

平成30年3月25日(日)に開催された日本大学工学部卒業記念パーティーにて以下の3名に校友会賞の授与を行いました。

門馬 空哉(生命) 体育会第48代委員長  
倉澤 薫(機械) 第66回北桜祭実行委員会委員長  
山本 夏斗(土木) 懇親團第61代團長



2018年3月末日に本会の歴史資料編纂委員会により発刊され4月21日の通常総会懇親会の席上、大学に寄贈された「日本大学工学部史料集」と「設立60周年記念日本大学工学部校友会史料集」が「校友会あかしや文庫」に仲間入りしました。各A3版の大型サイズで総頁数が850頁に及び写真を中心とする史料集です。

これらの史料集は、大学図書館、校史資料室(30周年記念館)及び校友会事務局で公開されています。ご来校の際は、校友会事務局にお立ち寄りになり本史料集をご覧ください。工学部創立の経緯や校友会設立と現在に至るまでの貴重な情報と写真等が満載されています。

# 日本大学工学部が推進する产学官連携活動 その2



日本大学工学部工学研究所次長  
機械工学科 教授 柿崎 隆夫

## 1. はじめに

早いもので、前回記事を書かせて頂いてから1年が経過しました。この間、「GAFAが世界市場を席捲する、日本の技術は大丈夫なのか」といった警世の書も多く出来ました。こうしたときにこそ、産学官連携における工学部の活動を皆様に広く知って頂くことが重要だと思います。その意味で再び校友会報に記事を書く機会をえて頂きましたことを、改めて感謝申し上げます。前回は、工学部および工学研究所の活動の概略を紹介いたしましたが、今回は最近のトピックを中心に活動状況をお伝えしたいと思います。

## 2. 日本大学ロボティクスソサエティ(NUROS)の設立

平成30年度における大きなトピックスの一つとして、日本大学ロボティクスソサエティ(NUROS; Nihon University Robotics Society)の設立があります。工学部にもロボット分野の研究者はいますが、いかんせんロボットに関する学問分野、応用分野そして企業の皆様の関心は極めて広範であり、一人工学部のみで対処できるとは言えません。そこで工学部が声掛けして、上記ソサエティ設立が宣言されました。少し長くなりますが趣意書には『平成30年度の年頭会同では改めて日本大学の改革とその徹底が宣言された。大学の役割としては教育と研究が車の両輪である。こうした背景を受け、再生可能エネルギー、AI応用、医工連携などとともに広義のロボット技術(ロボティクス)についても、日本大学の総合力はどうかと問われつつある。理工学部、生産工学部および工学部には、既にこの分野のハード、ソフト、システムおよびネットワーク、さらにナノからマクロまで関連の研究者は多くいるが、残念ながら個別の



日本大学ロボティクスソサエティ

図1

日本大学ロボティクスソサエティのロゴ(芸術学部のご協力による)

学会を通じての交流や連携にとどまっているのが実情である。そこで、今回まずは理工系3学部のロボティクス関連研究者情報共有と交流のプラットフォームを「日本大学ロボティクスソサエティ(仮称)」として構築することとした。ただしロボティクス分野は広義には実際に多様な領域を含むことから、次のステップでは医学部や文理学部などの関連学部にも輪を広げていくことしたい』とあります。

以上の宣言を受け、また本部研究推進部などのご支援も得て、会長には内木場文雄教授(理工学部理工学研究所長)、副会長には見坐地一人教授(生産工学部 With-Robotプロジェクトリーダー)ならびに武藤伸洋教授(工学部工学研究所ロボットシステム基盤プロジェクトリーダー)という体制で実質的な活動がスタートしました。これに併せ芸術学部の皆様のご協力により素晴らしいNUROSのロゴができあがりました(図1)。前哨戦として、昨年末には工学部において第19回産・学・官連携フォーラム『先に進む企業のためのロボット』が開催され、NUROSの概要ならびに各部の研究状況が紹介されました(図2)。こうした活動は工学部のある郡山市そして福島県におけるロボット技術の普及にも大きな波及効果を与えるものと関係の皆様からは期待が寄せられています。

少し堅苦しい話題になりますが、NUROSのねらいの一つにはこれまでの研究開発技術をロボティクスへの学術的貢献と社会実装の視点から一層強化し、日本大学総体が目指す独創的なロボットシステム実現のため盤石な基盤を形成していくことと言えます。その上で若い研究者、大学院生諸君が育ち、その成果が社会へ繰々と還元されていく、これは私の夢でもあります。学術的独自性と創造性の観点では、理工系3学部で進めてきた研究が



図2

第19回産学官連携フォーラム(生産工学部の研究紹介)

その候補となります。現時点ではこれらは、1)人間の技能を生かすためのロボティクス (HSD)、2)AI を応用したロボティクス (AID)、3)生物・生体に学ぶロボティクス (BMR)、そして4)持続可能なシステムロボティクス (SRD) へと大別できるでしょう。これらを俯瞰すると、1)は人間の運動やスキルを支援するための技術、そしてその能力を現場ないしは遠隔で最大限ロボットシステムへ埋め込む技術であり、2)はそこでの動作や作業での量や頻度すなわち時空間的な処理速度の問題を解決する技術、3)は従来の慣習思考を超えた創発的アイデアを自然から取り込む技術、さらに4)は具体的な社会実装において不可避となる課題を解決するシステム設計原理に関するものとなります。このような知識横断的なアプローチを1つの集団で実施された例はないようです。その意味でも NUROS の活動に私自身も大きな期待を寄せて

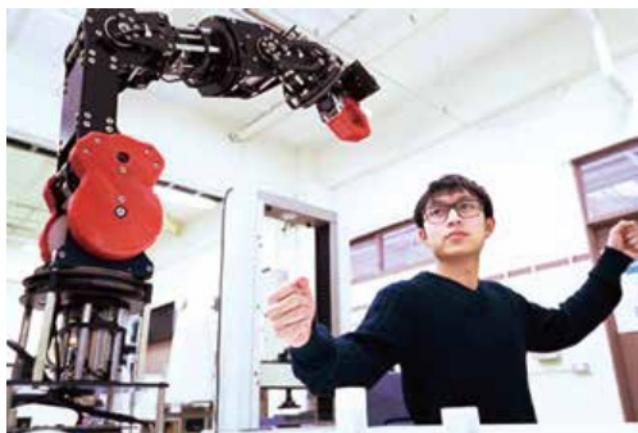


図3

ジェスチャーインタフェースによるロボット操作デモ（工学部）

います。

さて、この記事が皆様のお手元に届くころには「日本大学総力結集型ロボット研究拠点形成をめざした日本大学ロボティクスソサエティ NUROS 設立シンポジウム－Nihon University Robotic Society NUROS founded symposium aiming at establishment of research center for collective robotics at Nihon University－」が開催されているものと思います。このシンポジウムは、ゲストに新井史人氏（名古屋大学教授、ナノライフシステム研究所副所長）、弓取修二氏（新エネルギー・産業技術総合開発機構 NEDO ロボット・AI 部長）、そして我が国で初の産業向け人間協働型ロボットのベンチャーを立ち上げたことで著名な尹祐根氏（産総研主任研究員、元ライフロボティクス株式会社社長）をお迎えした記念碑的なイベントです。もちろん日大理工系3学部の研究活動と今後のビジョンを広くお知らせする意味もあります。

### 3. 工学部研究所プロジェクトの推進

前回の記事でご報告いたしましたように、工学研究所では多くのプロジェクトが活動しており参加メンバも次第に増えています。学生諸君も研究の一翼を担い、さまざまな研究テーマはメディアの注目も集めるようになっています（図3）。どのプロジェクトにも企業の皆様が参加されることは可能ですので、ご希望される校友の皆様はぜひとも工学部までお問合せください。最終に、今後とも校友会メンバの皆様のお役にたつ工学部であるべく教職員一同努力してまいりますので、ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

<http://www.ce.nihon-u.ac.jp>

## ～工学部校友会 校友企業の皆さんへ～

### 在学生のために校友企業の求人情報をご提供ください

日本大学工学部校友会会长 中野 伍朗 副会長 田村 賢一（工学部就職指導担当）

日頃より工学部の校友企業（オーナーが工学部校友の企業）の皆様には工学部の学部生と大学院生（共に日本大学校友会の準会員）の就職をご支援頂き御礼申し上げます。ご承知のように工学部の学生は全国から入学していますが、修学後は出身地へのUターン就職希望者が少子化の影響で増加しています。工学部では毎年約1,000名の卒業・修了生が巣立ちます。一方、求人は首都圏とその近郊が多く、地方の求人は少ないのが現状です。そこで、地方にUターン就職希望の学生は公務員として戻るか大都市圏に不本意就職する事になります。

このため、工学部から工学部校友会に「校友企業の求人情報を学生のために活用させて頂きたい」との依頼がありました。本校友会では工学部就職指導課と連携し、平成29年度から工学部ホームページの求人情報サイト（CS navi）に「校友企業の求人情報」を掲載しました。29年度は18社の求人があり、5名を採用して頂きました。

このようにUターン就職を目指す学生には地方の校友企業の求人は必要不可欠です。全国の工学部校友企業のオーナーの皆様、後輩の就職支援や御社のPRとして求人情報をご提供くださいますようお願い申し上げます。

つきましては、御社の求人情報（求人申込書及び卒業生在籍者名簿）を工学部校友会までメール（info@kouyu.ce.nihon-u.ac.jp）または郵送等でお送りください。なお、卒業生名簿等は個人情報保護に十分留意いたします。

末筆ながら、御社の益々のご発展を祈念いたします。







# 校友会報で振り返る昭和・平成の60年

\*会報のバックナンバーは創刊号から校友会ホームページでご覧頂けます。



## 校友会への期待



土木工学科主任 渡邊 英彦



機械工学科主任 西本 哲也

私も30数年前に工学部を卒業しており、校友の一人です。校友としては毎年郵送されてくる会報に目を通すのが楽しみであり、また、教員の立場では支援の必要な学生への様々な援助に感謝しています。校友会への期待は、このような多種多様な事業を今後も継続して欲しいことと、次の世代に繋ぐ魅力ある校友会としていただきたいことです。「今時の若者は…」、古代エジプトでもいわれていたそうですが、その今時の若者が次の世代を支えることになります。私が勤めてからも学生の気質は少しずつ変わってきましたが、最近の激変ぶりには驚かされます。このような学生に対して校友会はどのような係わりを持つのが良いのか。これまでとはまったく違った今時の有用な事業は何か。継続すべきことと今時に変えること。知恵を出し合う時と思います。そういえば自分は校友会の幹事でした。人任せにせず自分も考えることにします。未永く続く校友会を期待したいです。



建築学科主任 濱田 幸雄

工学部校友会ならびに校友の皆さんには、公私ともに大変お世話になっております。毎年行われる「母校を訪ねる会」でお会いする先輩方の元気なお姿に接すると、現役学生の静かさが心配になってしまいます。校友会からは、就職支援、給付型奨学金、大学院生に対する交通費補助など、入学時から卒業・修了までの間に数多くの細やかなご支援をいただいています。このことを知っている現役学生は思いのほか少ないのでしょうか。校友会の持続的発展を図るためにには、卒業して間もない校友が活躍してくれる態勢が望ましいと思います。そのためには、例えば「母校を訪ねる会」のとき、出身サークルの学生と話す時間を確保すること、交通費の支給を受けた大学院生が校友会報に学会発表報告を行うなど、現役世代と校友各位とのきめ細かい接触の場面を用意していただければと思います。最後に、校友会の益々の発展と校友各位のご活躍、ご健勝をお祈りいたします。



工学部校友会設立60周年、誠におめでとうございます。モノ作りの基盤の工学である機械工学は、高度経済成長期であった60年前と現在ではずいぶんと様相が変わってきました。オートバイやクルマが大好きで、しかしそれらは高価で手がとどかなかった時代=機械への憧れの時代でした。現在は、機械を学ぶ学生であってもインターネット、スマホ、ゲームなど、簡単に手がとどき、すでに保有している身近なものへと学生の興味は大きく移り変わりました。そして現代の機械工学を学ぶきっかけは、自動運転車や歩行ロボット、さらには医療機械といった革新的なメカになっています。しかしながら、これら最新技術の機械は、従来の機械工学の基礎知識があつてからこそ、開発できると思うのです。そこで、機械系産業界でご活躍の校友の皆様には、北桜祭をはじめとしたイベントに参加していただき、モノ作りや機械工学の面白さを現役学生に伝えていただけることを切望しています。このような校友と現役学生の交流の場が拡大することで、今後も工学部のすばらしい校友会という伝統を受け継ぎ、機械工学の益々の発展があるものと期待しております。



電気電子工学科主任  
渡邊 博之

日本大学工学部を卒業して40年間、校友会報は教職員と先輩の近況を知る手段となっています。校友会は、学部パンフレット作成でOB・OGの連絡先を知るために、「自主創造の基礎2」で非常勤講師依頼の卒業年度を知るために、県内高校訪問の際に所属研究室を知るために、北桜祭の母校を訪ねる会で同級会の立ち上げのためなど、多くの場で活用させて貢っています。いずれも校友会事務局で即答して頂けるので、名簿の管理とデータ整理には感謝するばかりです。卒業時の記念品として、これまで名刺入れ、財布、ネクタイピン、時計などが配布され、同一携帯物であるために、話が弾んで連帯感が強まったOBもいます。12月の学術研究報告会では喫茶コーナーの提供により、OBとの語らいができます。今後とも、工学部の教職員とOB、OB同士を繋ぐ校友会として、来るべき新年号に向けて更なる発展を期待しています。



生命応用化学科主任  
春木 満

生命応用化学科では、名簿をご提供いただくなど校友会のご協力を得て、3年前に「化学科同窓会」を設立しました。総会・懇親会には手塚公敏前会長、中野伍朗現会長にもご臨席を賜っております。そこで、校友会への期待として化学科同窓会との連携を取り上げたいと思います。これまで研究室の指導教員が退職すると、校友は学科と疎遠になりますが、そこで、せっかくの校友のネットワークを生かしきれていないのが現状です。そこで同窓会では校友相互の親睦の機会を設け、さらには在学生の交流を図り、学科の発展に寄与するとともに就職支援の一助とすることを目指しています。現在同窓会への出席者はそれほど多くなく、その増加が課題となっています。そのためには、校友会の広報活動や「母校を訪ねる会」などの活動と連携することが肝要と考えております。また、当学科では教職についている校友も多く、教員部会との連携により、受験生の確保も期待できます。今後、校友会とより一層連携を強めていきたいと考えておりますので、御指導・御鞭撻のほど、宜しく御願い申し上げます。



情報工学科主任 加瀬澤 正

数年ほど前、家の片付けをしたときに、大学の卒業アルバムが出てきました。私の知らぬ間に親が購入してくれたものなのですが、その古いアルバムには、研究室の集合写真や卒業生の顔写真のみならず、当時流行のコードアルバムのジャケットや映画のパンフレットなども載っており、当時の様々な記憶や想いに浸ることができました。そして、あらためて、大学時代の日々が、今の自分を作り、支えてくれているのだと感じました。

近年、SNSを始めとした情報発信ツールが急速に普及し、我々は、日々、膨大な情報を受け取るようになりました。そこでは、生き生きとした現代の情報が飛び交っています。しかし、ときには、古いアルバムのようなスローで心安らぐメッセージや、過去の自分との静かな語らいが必要であるように思います。

大学時代を郡山で過ごした校友にそんな優しい時間を贈ってくれる、校友会がそんな役割も担ってくれたらいいな、と思う次第です。



総合教育主任 植竹 大輔

総合教育主任を拝命して今年で5年になります。その間、6月と7月に北海道から九州に渡って毎年開催される地方父母懇談会に出席してきました。その5年前から、父母懇談会では校友会の会員が出席し、在校生の御父母と交流を深めてきました。その席でお会いした会員は、多彩な業種の地元で活躍する方々でした。改めて、日本大学の卒業生の層の厚さや社会的貢献を実感し、誇りに思った次第です。

通常ですと在校生の御父母が卒業生と交流する機会は限られています。御父母にとって会員の素晴らしい実績、奨学金などの様々な支援を知ることが出来、毎回恵みの多い父母会となっていました。

来年度から父母会は父母面談会として姿を変えますが、今後もこのような父母との交流の機会を出来るだけ企画し、在校生の可能性を鼓舞し、輝かしい将来についての御示唆を与えて頂きたいと願っております。



臨床工学技士課程  
機械工学科 片岡 則之

日本大学工学部の機械工学科と電気電子工学に、2013年4月「臨床工学技士課程」が設置されました。臨床工学技士は、医療系の国家資格であり、他の医療従事者とは異なって「工学的技術と素養」を求められた唯一の国家資格です。

資格取得には、基礎医学、臨床医学や生体機能代行装置学、生体計測装置学などの専門知識に加え、電気電子回路、機械工学や医用情報工学などの幅広い知識が求められます。そのため、工学部の教員と、日本大学医学部、附属板橋病院、日本大学病院との連携、近隣の大病院との連携で、学生への教育を行っています。本課程の履修学生は、4年間で200単位ほどと非常に多くの授業・実習を履修することになります。

毎年、多くの病院様、医療機器メーカーから求人を頂いてる現状ですが、「LOHASの工学」の「Health」を支える技術として、今後もこの課程の発展に尽力していく所存です。校友会の皆様には、熱意を持って勉学に取り組み、資格取得を目指している学生へのご支援をよろしくお願い致します。

# 校友レポート

## 次世代につなぐ、ものづくり



合同会社ねっか 代表社員  
建築 45回卒 脇坂 齊弘

福島県只見町。人口4200人。ユネスコ・エコパークに認定された自然豊かな地域で、冬は積雪3m以上になる新潟県境の豪雪地帯。そこに私の会社「合同会社ねっか」があります。

弊社は、「地域の想いをかたちにし、次世代に想いをつなぐ」を理念に掲げ、2016年に設立。6haの自社田で採れた酒米を原料に、米焼酎「ねっか」を製造しています。あまり知られていない米焼酎ですが、製造方法は日本酒つくりとほぼ同じです。私達は、福島県がもつ日本一の日本酒の醸造技術を、米焼酎に応用し、華やかな吟醸香の香り高い米焼酎を目指しております。製造をしてわずか2年ですが海外でも高い評価を受け、国際酒コンクールで受賞もしております。この米焼酎の利点は、常温で管理でき、長期貯蔵が出来ることや、糖分・プリン体が無く、和食とも合わせやすいことです。私的にはお鮓との相性が一番と思っています。

この米焼酎は、美味しいだけではなく、過疎高齢化に悩む山間部の問題を解決する一つの方法として注目を集めています。米を活用することは、担い手の減る圃場を守ることにつながり、冬がメインの酒つくりは農家の冬季雇用につながってます。また、地元の小学5年生と高校3年生を対象に、田植え、稲刈り、酒つくりまで一年を通した体験を行っています。どちらも未成年なので、出来たお酒は弊社で預かり、成人式の日（20歳）にプレゼントします。小学5年生は、なんと9年貯蔵酒をもらえることになります。この事業を通じて子供たちに地域の魅力を感じてもらい、それが只見に戻って来ることにつながって欲しいと考えております。

建築科を卒業した私ですから、畠違いの事をしている様に感じると思いますが、20年間空き家だった民家を、蒸留所や店舗へのリノベーションは建築そのもの。また、卒業後、建築の現場監督で学んだことは、会社経営に役に立ってます。在学中や卒業後学んだ建築という物つくりは、農業や地域を次世代につなぐものつくりに、しっかりと生きています。



# 頑張り記



## 初心を忘れず

凸版印刷株式会社  
生命応用 65回卒 土屋ひかる

私は兼ねてより製造の土台となる材料の開発に興味を持っており、幅広い化学の知識を学びたいと考え、工学部生命応用科学科に入学致しました。しかしながら、就職活動を通して製造の川上の分野だけでなく、川下の分野にも興味をもつようになりました。また、親戚が包装資材を扱う仕事をしていたこともあり、機能性だけでなく広告のような役割も果たし、様々な形で商品に付加価値を与えるパッケージに興味を持ちました。そして、印刷技術をベースとして「情報コミュニケーション」「生活・産業」「エレクトロニクス」の3事業分野で幅広く展開する「凸版印刷㈱」の技術力に可能性を感じ入社致しました。

私が勤務する工場では「情報コミュニケーション」「生活・産業」の分野の一部を担っており、チラシやカタログなどの一般的な紙媒体、紙器（例えばお菓子の箱など）、フィルムでできた軟包装のパッケージの生産を行っています。その中で私は特に紙器製品の製造に携わっており、工場で生産するための仕様を考える設計の仕事を担当しています。この仕事はお客様（得意先）と工場（製造）をつなぎ、両者の利益を考える重要な仕事です。ただお客様の要望に応えるだけでなく、より使いやすく、安定した品質のものを提供するためにはどうすべきか等様々なことを考え、時にはお客様への提案も行います。そのため仕事を通して、より1つの製品が出来上がるまでにどれだけ多くの人が関わっているのかを感じさせられます。だからこそ、入社して以来今まで以上にコミュニケーションの大切さを感じます。様々な立場で物事を考えなくてはならず難しいことが多いですが、やりがいを感じています。このような仕事をしていると私が関わる製品の多くは日常生活に密接したものばかりです。様々な場所に自分の携わった製品があるのはとうれしくなると共に、常に多くの方々の目に晒されることを再認識します。そのため、日頃から初心を忘ることなく気を引き締めて仕事に取り組んでいます。

パッケージにはまだまだ可能性があります。昨今の多様化するニーズに応え、新たな領域を開拓するためにも、弊社内でも機能性をもった材料（GL FILM等）の開発や、新しい包装形態の検討が日々行われています。何事も新しいことを始めるのは難しいですが、私もその一翼を担うべく、今後も努力し成長したいと思います。



## 日本大学工学部校友会員各位

平成 31 年 3 月 1 日

校友会会长 中野 伍朗

## 平成 31 年度 通常総会通知

本会会則第 13 条により、日本大学工学部校友会平成 31 年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席くださいますよう、御通知申し上げます。

1. 日 時／平成 31 年 4 月 20 日(土) 13 時より
2. 場 所／日本大学工学部 50 周年記念館 3 F
3. 議 題／(1) 平成 30 年度会務報告および決算報告  
(2) 平成 31 年度事業計画および予算審議  
(3) その他
4. 懇親会／15 時より同会場 2 F



## 第 39 回 母校を訪ねる会

日 時／2019 年 11 月 3 日(日) (予定)  
場 所／日本大学工学部 50 周年記念館を予定  
対 象／第 17 回卒業生 (昭和 44 年 3 月卒業)  
第 27 回卒業生 (昭和 54 年 3 月卒業)  
第 37 回卒業生 (平成 1 年 3 月卒業)  
第 47 回卒業生 (平成 11 年 3 月卒業)  
第 57 回卒業生 (平成 21 年 3 月卒業)

今回は左記の卒業生が母校訪問の主たる対象となります。大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や旧友との再会に懐かしい一時をお過ごしください。この日は第 69 回北桜祭開催中です。

なお、クラス会を予定されている幹事の方は校友会に御一報下さい。出来る限り応援いたします。

**卒業後 50 年以上の方、対象年度外の方もご参加いただけます。**

### 挿画について



古橋 栄吉 さん (建築学科 8 回卒: 郡山市在住)

会報第 82 号発行に際し、前号に続き古橋栄吉さんの御協力をいただき、昨年から氏が描き貯めた「花や果樹」、過去に描いた「郡山やキャンパスの近隣風景」スケッチ・版画を表紙・他頁に掲載させていただきました。深く感謝申し上げます。

## 校友会報 第 82 号

発 行 者 日本大学工学部校友会  
福島県郡山市田村町徳定字中河原 1  
郵便番号 963-1165  
電話番号 024-944-1327  
FAX番号 024-944-1327  
E-mail : info@kouyu.ce.nihon-u.ac.jp  
URL : http://www.nichidai-ce-koyukai.com

発 行 部 数 51,500 部

発 行 日 平成 31 年 3 月 1 日

発行責任者 校友会会长 中野 伍朗

編集責任者 広報委員長 千代 貞雄



この印刷物はベジタブルオイルインキを使用しております。